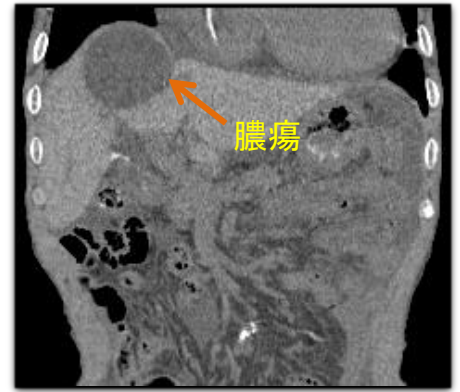


■ CTガイド下経皮的膿瘍ドレナージ

膿瘍とは、主に細菌感染などのため引き起こされる炎症で、限局的に膿(うみ)が貯留した状態です。

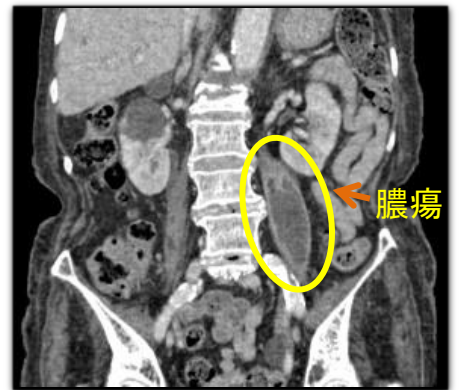
症状としては、発熱や局所の痛みなどがあります。治療が遅れると血液中に細菌が入り込み（敗血症：はいけっしょう）、悪寒・振えを伴う高熱が見られます。さらにひどくなると血圧低下、意識障害を起こし、ショック状態となる場合もあります。



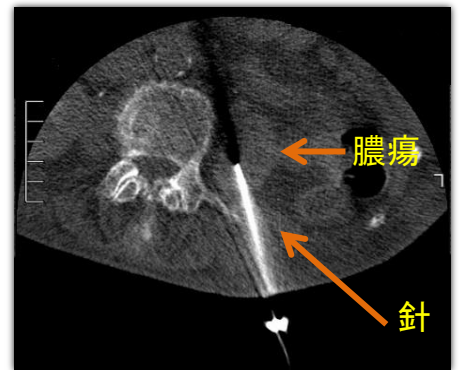
肝膿瘍

腸腰筋膿瘍に対するCTガイド下膿瘍ドレナージ

- 1)CT画像で膿瘍の位置や穿刺（せんし）経路を確認し、針を刺す部位とルートを決めます。
- 2)穿刺部から穿刺経路に局所麻酔（ますい）を行った後、CT画像を見ながら膿瘍に針を進めます。
- 3)針が確実に膿瘍内に入ったことを確認後、針の芯（しん）を抜きます。中空になった針の中をガイドワイヤーという細い針金をとおり膿瘍内に進めます。針を抜去し残ったガイドワイヤーに、カテーテルをかぶせて膿瘍内へ進めます。
- 4)針を抜去し残ったガイドワイヤーに、カテーテルをかぶせて膿瘍内へ進めます。
- 5)カテーテルが膿瘍内に入ったことを確認後、ガイドワイヤーを抜いてカテーテルを通じて膿が排出されます。
膿が排出されなくなったら、カテーテルを抜去します。



腸腰筋膿瘍



ガイドワイヤー



排出された膿